

横浜市 麻しん流行情報

横浜市医療局健康安全課／横浜市衛生研究所

横浜市内で麻しんの発生が続いています

【2026年第10週(3月2日~3月8日)までの概況】

- ✓ 横浜市内では、第10週に3件の報告があり、2026年1月からの累計は**6件**です。
- ✓ 6件はいずれも海外渡航歴のない**国内感染**です。
- ✓ 麻しんは感染力が強く、手洗い・マスクのみでは予防できません*1。
- ✓ 予防には、**ワクチン接種が最も有効**です*1。 ※1 [厚生労働省 麻しんについて](#)



【麻しんとは?】

麻しんウイルスによる感染です。感染力が非常に強く、免疫をもっていない人が感染するとほぼ100%発症します。空気感染をするため、同じ空間にいただけで感染することがあります。症状は発熱、咳・鼻水・結膜充血(カタル症状)、口腔内の白い斑点(コプリック斑)、発しんです。肺炎や脳炎を合併すると、重症化することがあり注意が必要です。

【予防方法】

最も有効な方法は、**2回***2のワクチン接種です。2回のワクチン接種により95%程度の人が麻しんウイルスに対する免疫を獲得できるとされています。お子さんは確実に麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)の定期接種を受けましょう。

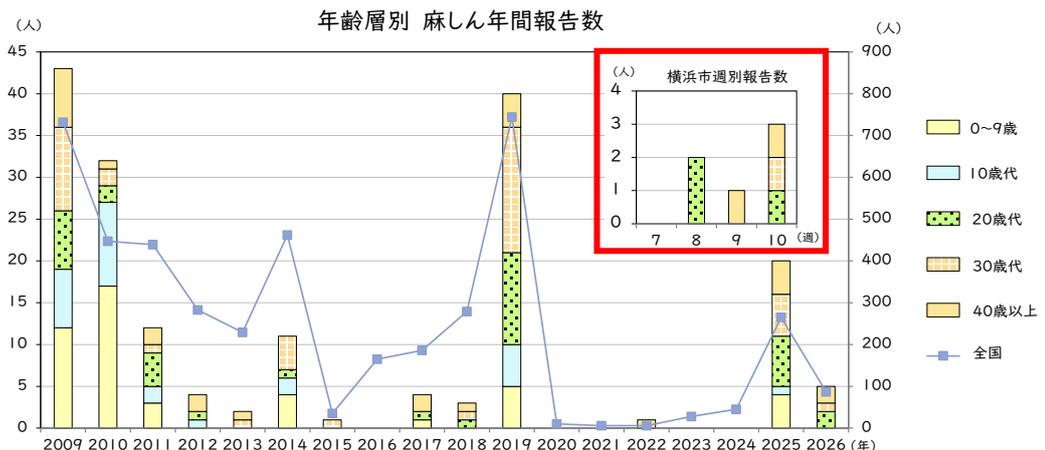
※2 I期:生後12~24カ月未満、II期:小学校就学前1年間(5歳以上~7歳未満)

接種歴を母子健康手帳で確認しましょう。接種歴がない、または不明な方は、抗体価の検査について医療機関に御相談ください。

【流行状況】

国内では第9週(2月23日~3月1日)までに累計87件報告されています。愛知県20件、東京都及び新潟県10件、大阪府9件、千葉県8件と続き、神奈川県及び埼玉県は6件*3です。

※3 神奈川県6件は横浜市を含む。



☞ 麻しんにかかったかな?と思ったら...

発疹、発熱など麻しん様の症状がある場合、麻しんの疑いがあることを、受診先に事前に電話等で伝え、受診の注意点を確認してから受診しましょう。移動の際は、公共交通機関の利用は可能な限り避けてください。